

九祖 村井豊後守頼
 弘治元年十三歳之時
 前田義人利之公之蒙
 御梅育同二年夏
 十四歳之時依
 御求
 利家公奉仕

「村井長頼武功控」(1080)

而加筆謹并載仕以松養子之
 茶田恭作三男右源大智出子
 奉願隨年寄共相違取書付茂
 指出度身存旨上之度紙面
 少人信多次第可重取由澤不
 有存進身年寄共相違取書付
 一丁以美作之 沖心意之
 委細之越之服之沖之共
 免角一丁上様後守
 并納仕 沖中法封差上
 七月十四日 村井豊後守

「壬戌十二月六日村井主膳養子願書等付、加筆書翰」(1109)

令和5年 新春展

前田育徳会寄託近世史料展

—村井家文書—

先達白痛氣保養之
 養付使
 加領与依江 行也
 有之奮冬以来毎日
 於席之懈怠一使候
 思石作指又此以
 保養之効具又
 松雲院御筆之通
 候所余以忠誠不勤
 頌江
 仰之通之志却
 与之由達旨江
 仰上
 天明六年
 二月

「村井又兵衛宛申達書(又兵衛病氣保養の件)」(1122)

令和5年2月7日 (火) ~ 令和5年4月9日 (日)
 金沢市立玉川図書館 近世史料館

「金府大絵図」(大1005)

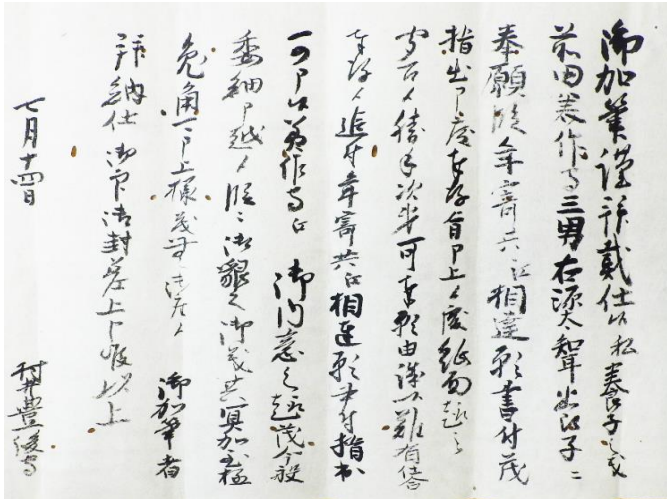
はじめに

令和4年度に公益財団法人前田育徳会から加賀藩政に関する近世史料の寄託を受けました。本展示では、そのなかから年寄衆八家の村井家における養子縁組の史料を中心に展示します。

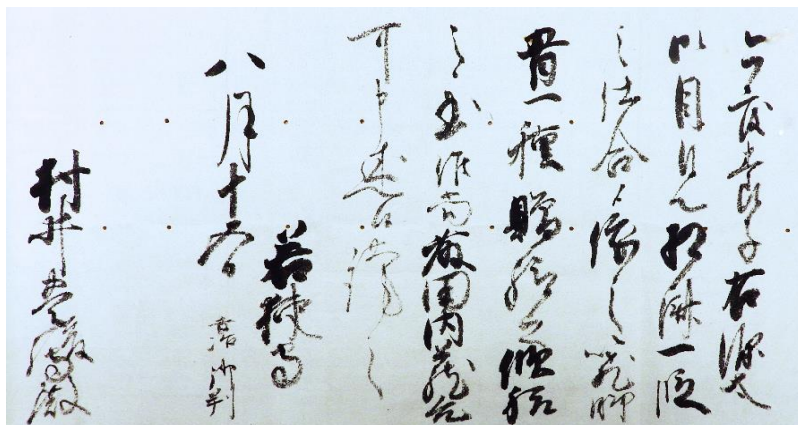
村井家の家祖である長頼は、前田利家に古くから仕えた人物であり、譜代家臣のなかでも古参といえます。その村井家では、11代にわたる歴代当主のうち、3代長家・6代長堅・7代長穹・10代長貞・11代長在が養子にあたりますが、そのうち長堅・長貞・長在の3名は婿養子でした。前田綱紀の意向をうけて形成された血筋継承意識の反映とも指摘されますが、この婿養子の多さが村井家の特徴ともいわれており、本展示ではその一端を紹介します。

※なお、史料名および史料番号は寄託段階のものであり、整理後に変更となる予定です。

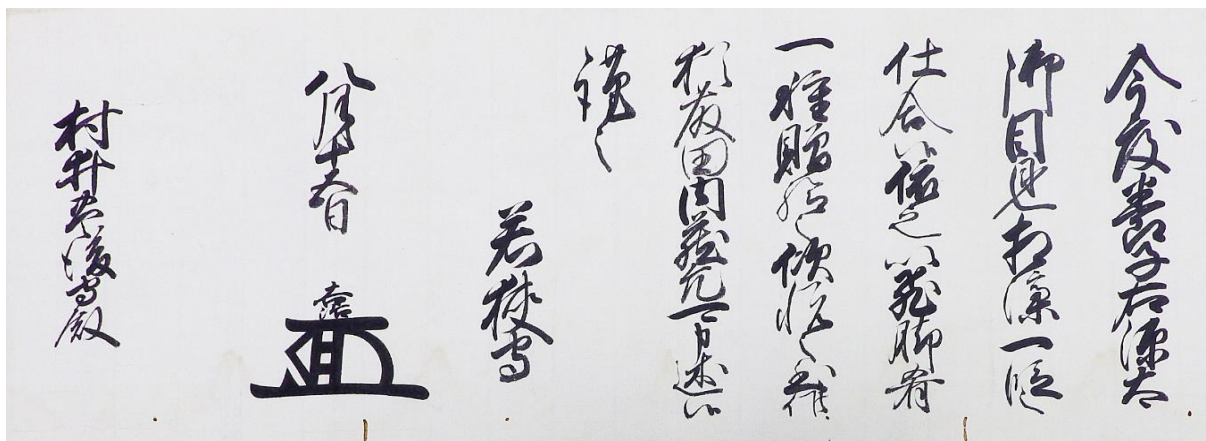
〈5代親長の養子〉



「壬戌十二月六日村井主膳養子願書等 付、加筆書翰」(1109③)

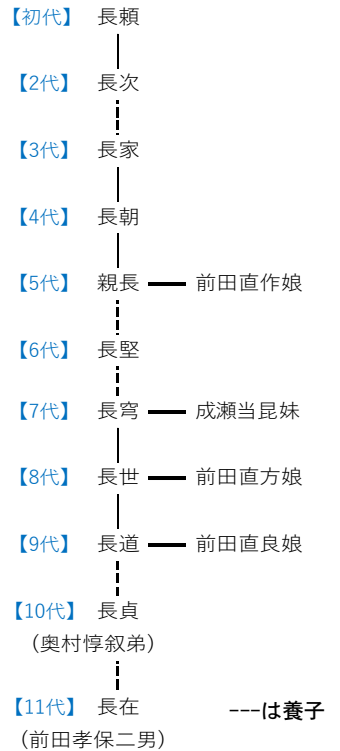


「村井豊後守宛若狭守吉治書翰写」(1090)



「村井家宛御書」(16.34-71-144)

村井家歴代当主



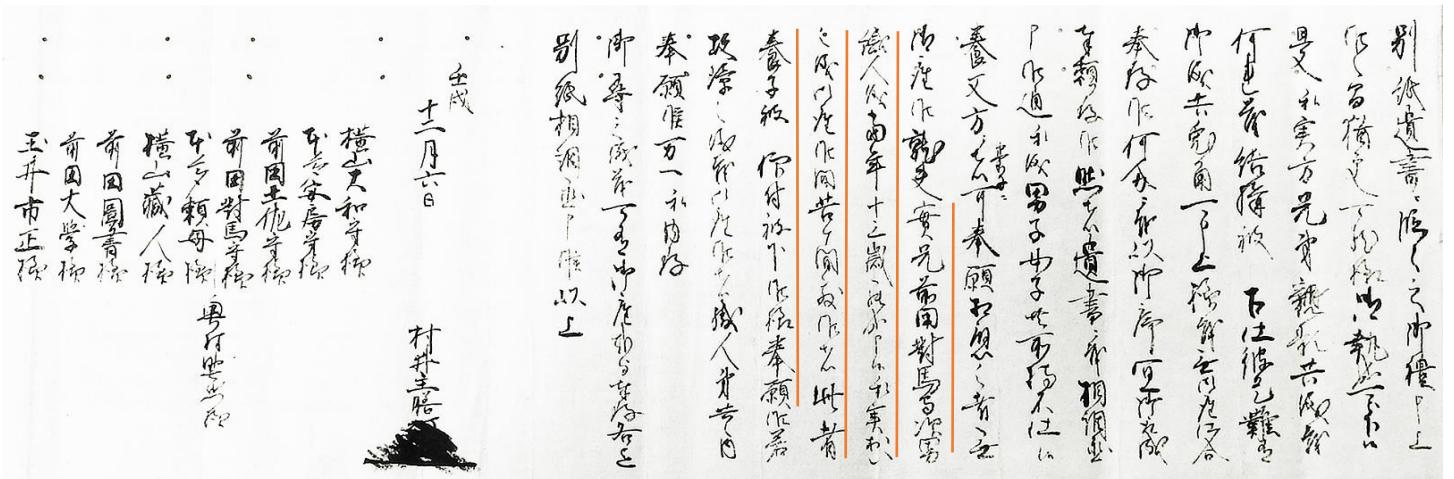
宝永7年(1710)7月に前田孝行(美作守)三男の右源太を婿養子にする。「村井家譜」(16.31 - 228②、以下同)にも同様の記載があるが、実際に婿養子となったのは7月16日であり、上はその前に出された書状と考えられる。

また、婿養子となった翌月には右源太の藩主御目見があり、その際の贈答により世嗣吉治(吉徳)から礼状が届いている(左)。

下の「村井家宛御書」が原史料と考えられるため、左は写しであろう。なお、右源太は6代目長堅。

〈6代長堅養子願〉

6代長堅(主膳)のあと、再び養子を迎えることになったが、まず候補としてあがったのが実兄前田孝資の子織人であった。しかし結果的に織人は養子とはならず、代わりに養子となったのが、織人同様実兄の子吉十郎(のちの7代長穹)である。



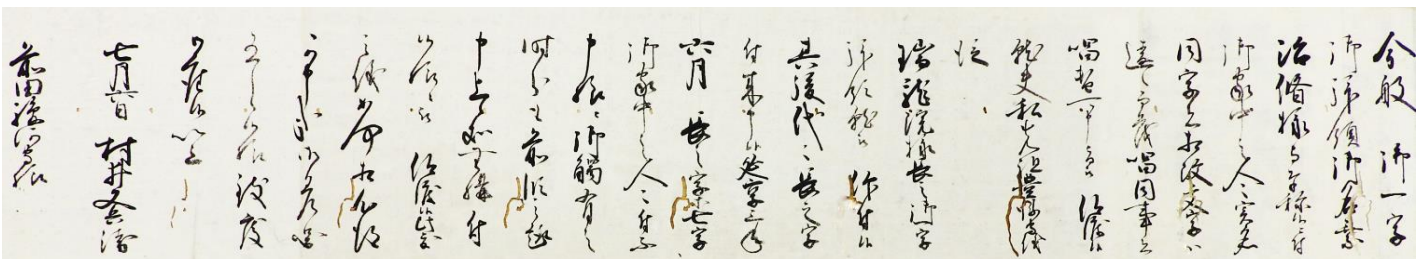
「壬戌十二月六日村井主膳養子願書等 付、加筆書翰」(1109①)



「本多安房守宛村井主膳書翰案(養子の件)」(1111) ※部分

〈7代長穹と名前〉

明和8年(1771)に11代藩主治脩が利有から改名した際、長穹は代々使ってきた「長」の字の「なが」という読みが被ることを案じ、どうすべきかを問い合わせているが、結果としてそのままよいとされた。「村井家譜」によれば、のちの8代長世のときにも同様のことがあったとある(12代藩主齊広が筑前守となったことによる)。

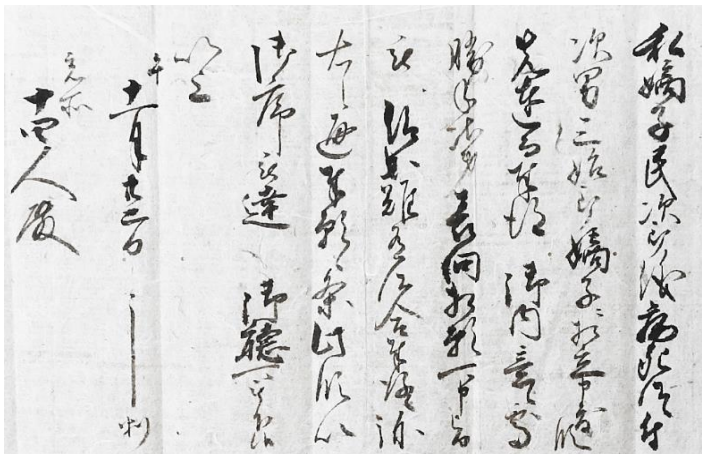


「(明和九年)七月六日前田駿河守宛村井又兵衛書翰写等(村井又兵衛実名改の件)」(1082)

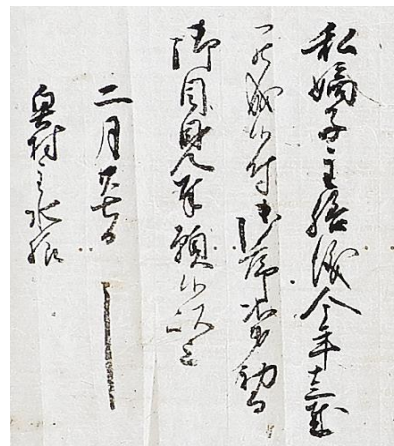
〈7代長穹から8代へ〉

7代長穹のあと8代目を決めることとなるが、このときは養子ではなく、直系である。しかし、決まるまでには長い期間がかかった。嫡子が早世してしまうためである。ここでは家系図をあわせてみていく。

まず、嫡子として藤十郎(系図①)が生まれるも、明和5年になくなるため、翌年民次郎(系図②)を嫡子とする。しかし民次郎も安永3年に早世し、あらたに嫡子を立てることとなった(「村井家譜」)。なお、「諸士系譜」にはこの民次郎は記載されていない。この後嫡子に立てられたのが三始郎(系図③)であるが、「諸士系譜」には民次郎と書かれており、次男の民次郎と混同されている可能性がある。

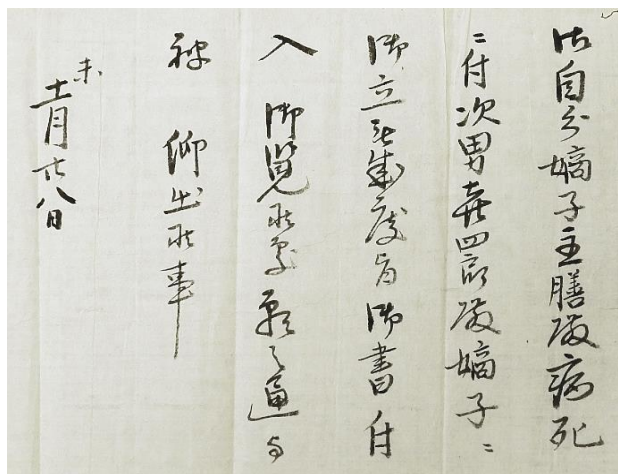


「村井又兵衛願上書等(養子の件)」(1119①) ※部分

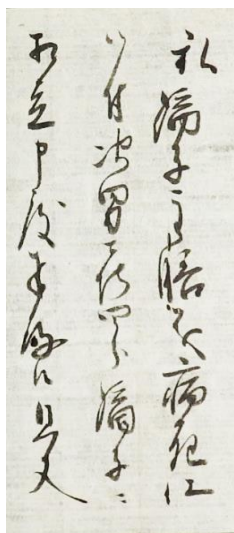


なお、三始郎はのちに主膳を名乗る(「同左」)

主膳は安永7年に御目見を果たすものの、16歳で亡くなる。それにより次に嫡子に立てられたのが、喜四郎(長世)である(系図④)。

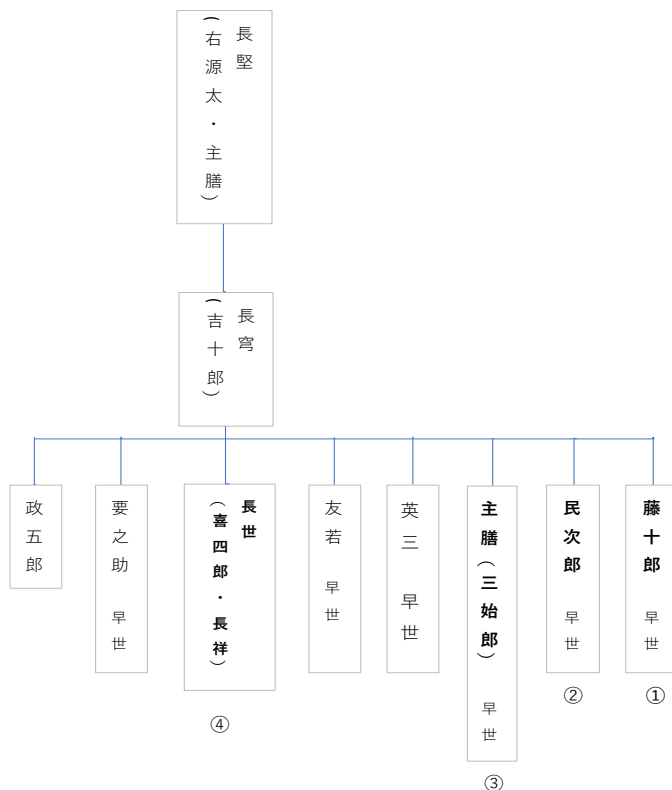


「村井又兵衛宛書翰(嫡子主膳病死に付跡目の件)」(1113)



「私嫡子主膳義病死仕候付云々(村井主膳跡目の件)」(1116) ※部分

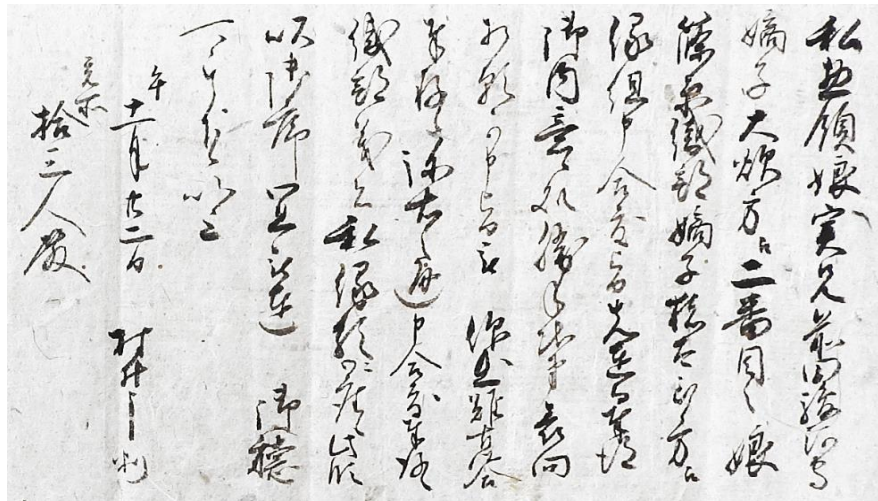
長穹男系図



「村井家系図」(16.31-226)・「村井家系」(16.31-236)をもとに、男系分のみ作成している

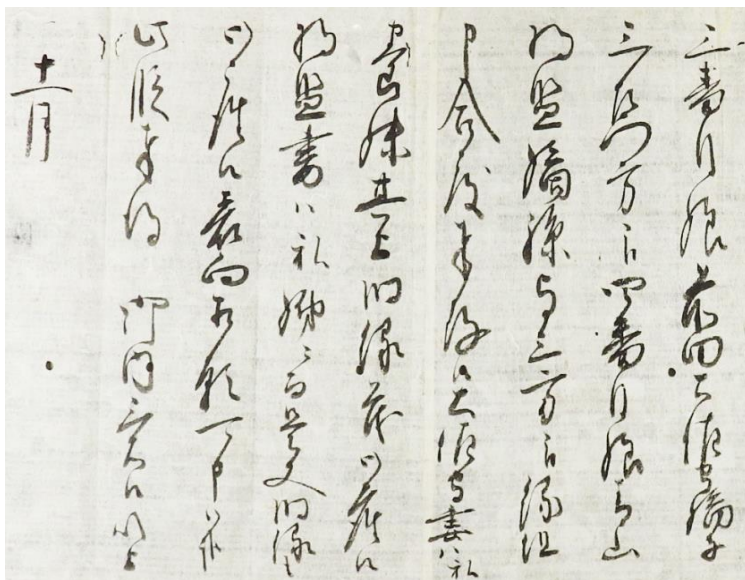
〈7代長穹娘らの縁組〉

8代長世(喜四郎)に決まるまでの間、娘たちの縁組もいくつかあり、長世自身の縁組に関する史料もある。



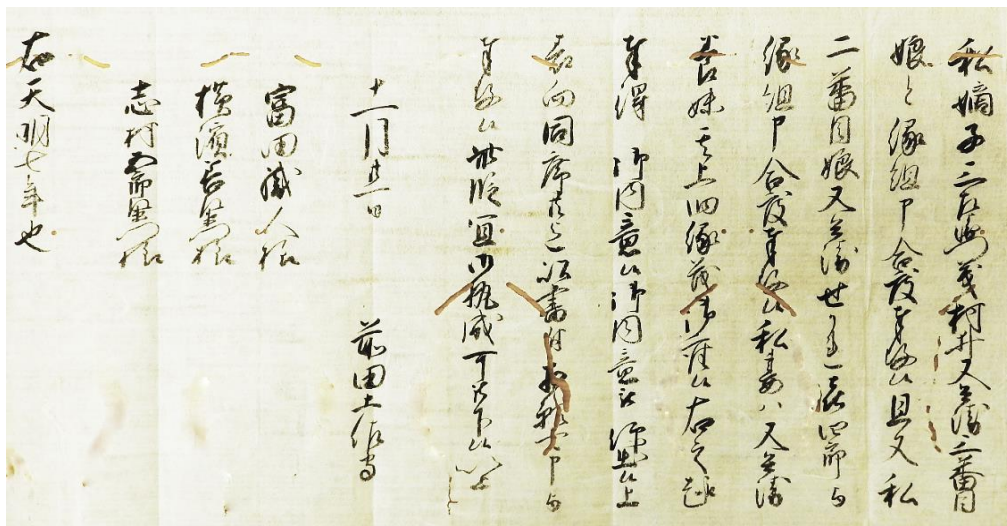
まず、最初の娘は実兄である前田孝友嫡子大炊に嫁ぐ。
2番目の娘は、篠原織部の嫡子猪太郎と縁組する。

「村井又兵衛願上書等(養子の件)」(1119①) ※部分



次に、3番目の娘は前田直方(土佐守)嫡子三左衛門へ嫁ぐとあるものの、三左衛門は早世する。そのため成瀬内蔵助妻となった。
4番目の娘は、青山将監嫡孫の与三と縁組する。

「私嫡子主膳義病死仕候付云々(村井主膳跡目の件)」(1116) ※部分

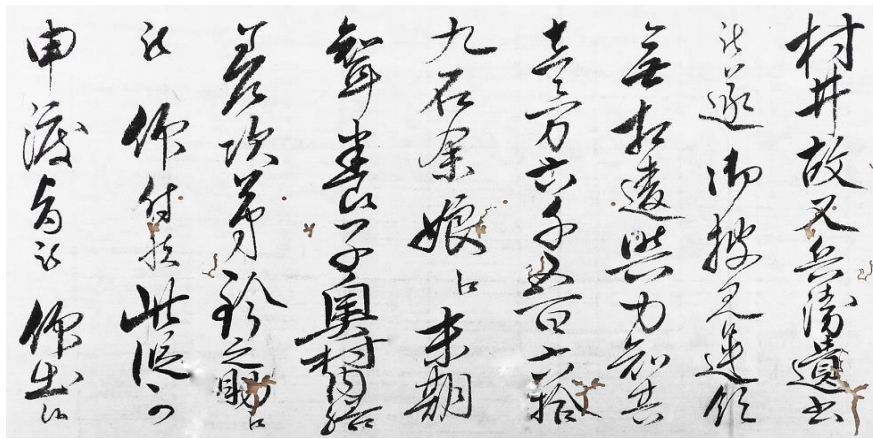


この史料は前田土佐守側のもので、先の3番目の娘と三左衛門との縁組について書いている。

また前田直方の2番目の娘と喜四郎の縁組についても書かれている。

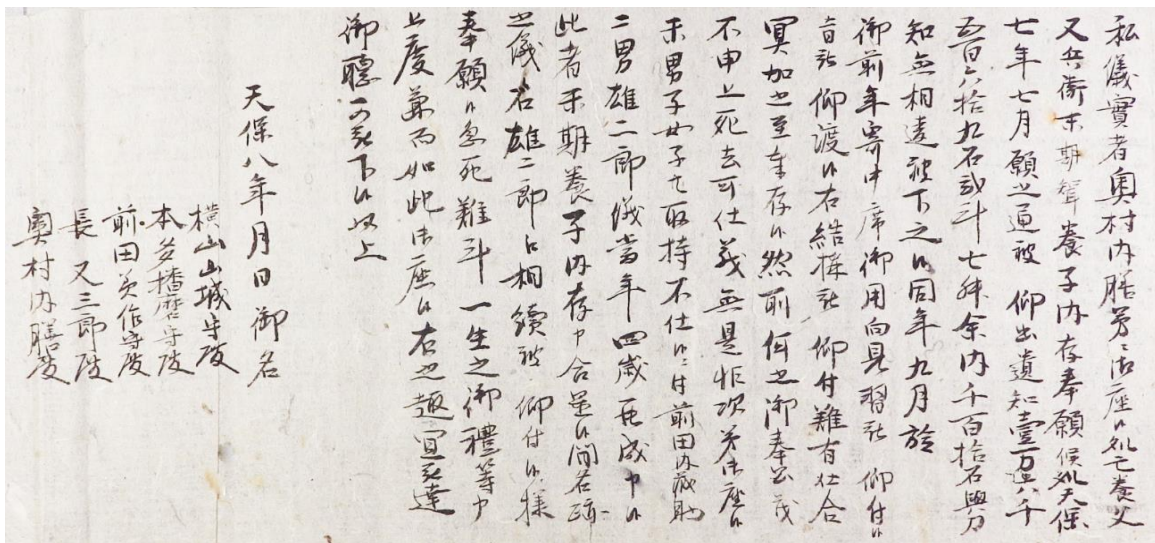
「富田織人外二名宛前田土佐守書翰・同人宛村井又兵衛書翰(前田土佐守家と村井家縁組の件)」(1115①)

〈10代以降の養子〉



「御書立等(村井又兵衛遺書被遂御披見云々・座列之儀内膳次と被仰出候事云々)」(1100)

9代は長世の子(長道)が継いだため養子はなかった。しかし10代は再び婿養子を迎えることになり、奥村惇叙(内膳)弟の鈴之助を婿養子とした(長貞)。



「私末期内存之義先達而御示談申上候砌云々等(村井又兵衛養子の件)」(1117①)



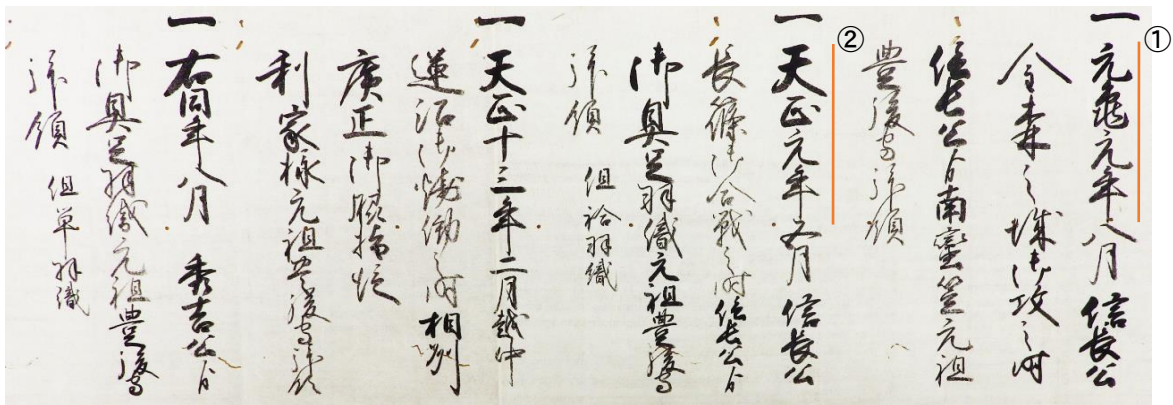
「村井家宛御書」(16.34-71-244)

続く11代も婿養子であり、前田孝保(内蔵助)二男の雄二郎が天保13年(1842)に村井家を相続している(長在)。

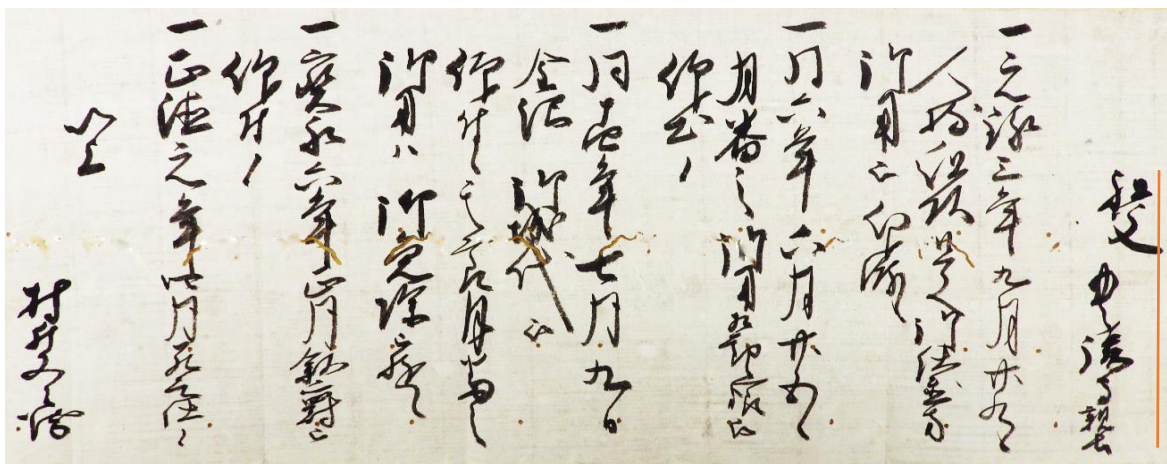
〈初代長頼、5代親長〉

ここからは時代が遡るが、初代長頼(豊後守)と5代親長(出雲・豊後守)についての史料を見ていく。

まず、初代村井長頼は14歳で前田利家に仕えたといわれるが、以降の武功を示したものが下の史料である。この史料で「元亀元年」(傍線部①)、「天正元年」(傍線部②)となっている箇所については、「村井家譜」では「元亀2年」、「天正3年」とあり(他の寄託史料でも「村井家譜」と同様に記載)、史料によって異同があることがわかる。

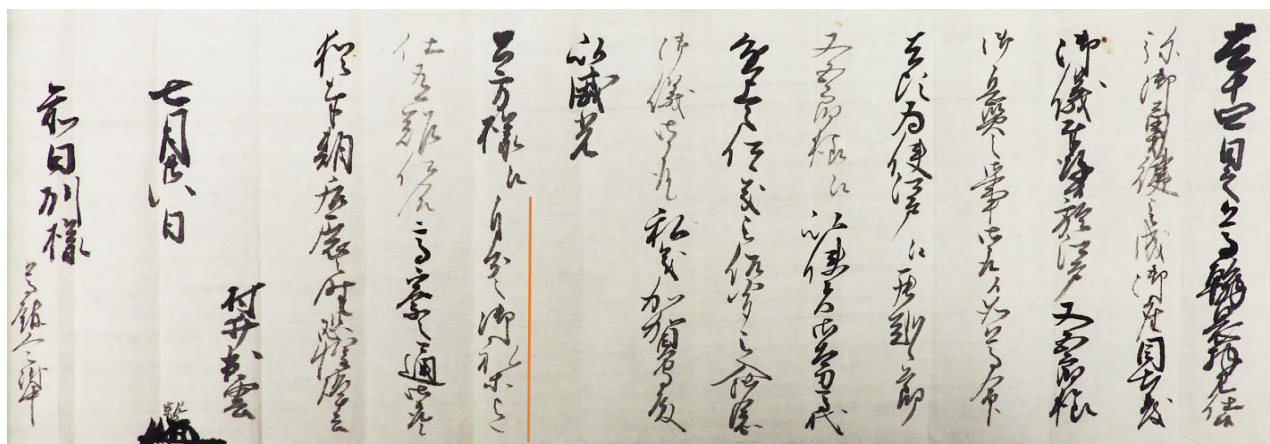


「村井長頼武功控」(1080①)



「村井又兵衛祖父豊後守親長由緒書」(1097)

5代親長についての由緒が書かれた文書であるが、「祖父豊後守親長」(傍線部)とあることから、この村井又兵衛については7代長穹とおもわれる。



「前田日向守宛村井出雲親長書翰」(1091)

本史料は、村井出雲(親長)が前田日向守に宛てた書状で、江戸に使者として向かった際、加賀守の威光によって将軍に拝謁し、「自分之御礼等迄」できたことが書き記されている(傍線部)。「村井家譜」の元禄元年の箇所にも、「公方様江御名代之御礼、且又自分之御礼茂被仰付」とあり、このときのことを指すと推測されることから、「公方様」は徳川綱吉、「加賀守」は前田綱紀、「前田日向守」は七日市前田家の分家である苗木山前田家の前田孝矩(旗本・2500石)、「股五郎」は孝矩の子である孝始と考えられる。

前田育徳会寄託史料 村井家文書

* が付いている史料は展示中の史料

番号	標題	年月日	差出人・充所・作成者等	形態	点数
1078	御七代長宥様御附二指添候蔵入目録(村井親負宛目録)・馬懸場図面	①3月 ②年未詳	①算用場→村井親負	①切続紙、折封有 ②一枚	2
1079	又兵衛覚書(武具取扱の件)	孟秋(7月)3日	又兵衛(花押)→喜内	切続紙	1
* 1080	村井長頼武功控	①(宝暦9・10年頃御覧入) ②(明和8辛卯歳御覧入) ③④年未詳		①②切続紙 ③④切紙	4
1081	村井豊後守武功覚	年未詳		切続紙	1
* 1082	(明和九年)七月六日前田駿河守宛村井又兵衛書翰写等(村井又兵衛実名改の件)	(1)(明和9年)7月6日 (2)7月6日 (3)正月25日 (4)7月8日[奥書]7月25日	(1)(2)村井又兵衛→前田駿河守 (3)奥村主水→村井親負 (4)前田駿河守→横山河内守・前田修理・大音帯刀 [奥書]横山河内守→前田駿河守	こより綴 (1)(2)切続紙 (3)切紙 (4)袋綴(2枚)	1
1083	御取次衆宛村井又兵衛書翰(村井長頼軍功の件)	12月14日	村井又兵衛→御取次衆	切続紙	1
1084	津田玄蕃女実ハ不破彦三妹ニ而御座候云々(津田玄蕃女知行の件)	年未詳		一紙	1
1085	大場八郎右衛門起請文前書	年未詳	大場八郎右衛門→石田三郎右衛門・松沢外記	続紙	1
1086	庚子五月諸事留書	庚子5月ほか		切続紙	1
1087	七月十六日前田美作守宛村井又兵衛書翰案等	(1)~(3)7月16日 (4)9月22日 (5)7月15日 (6)寅4月3日 (7)4月6日 (8)年未詳 (9)寅4月2日 (10)7月14日	(1)村井→前美作守様人々御中 (2)村井豊後守 (3)村井→前美作守 (4)村井出雲→前田美作守 (5)一本多・前田・奥村・本多・前田・玉井・成瀬 (6)村井又兵衛 (7)村井又兵衛 (10)村井豊後守	こより綴 (1)切続紙 (2)~(10)切紙	1
1088	村井又兵衛覚書(芳春院様江戸詰の件)	甲子2月16日	村井又兵衛	切紙	1
1089	村井豊後守宛林大学頭書翰	閏月17日	林大学頭(判)→村井豊後守	切続紙	1
* 1090	村井豊後守宛若狭守吉治書翰写	(宝永7年)8月15日	若狭守吉治→村井豊後守	切紙	1
* 1091	前田日向守宛村井出雲親長書翰	7月28日	村井出雲親長(花押)→前日州(前田日向守)様尊報人々御中	切紙	1
1092	十月廿八日前田平左衛門宛村井出雲書翰等	(1)10月28日 (2)正月7日 (3)9月12日 (4)10月10日 (5)11月4日 (6)10月29日 (7)7月28日	(1)村井出雲→前田平左衛門 (2)村井出雲長口(花押)→房州 (3)(4)村井出雲→前備前 (5)村井出雲→山根勘左衛門 (6)村井出雲→石丸吉丞 (7)村井出雲親長(花押)→前宮内様尊報人々御中	こより綴 (1)~(3)切紙 (4)切紙(切封) (5)~(7)切紙	1
1093	村井又兵衛宛書翰(多慶表用向兼帯免許の件)	(慶応2年)4月4日		切紙	1
1094	口上之覚等	年未詳		折紙	1
1095	村井豊後守御請御意之趣謹承知仕候云々(家来諸大夫申付の件)	年未詳		切続紙	1
1096	長・村井・奥村歴代名書	年未詳		切続紙	1
* 1097	村井又兵衛祖父豊後守親長由緒書	年未詳	村井又兵衛	切続紙	1
1098	正月廿三日与右衛門へ逢申達候覚(村井又兵衛改名の件)	辛巳(宝暦11年)正月23日		切続紙	1
1099	九月大炊宛村井主膳書翰等	(1)(享保16年辛亥)9月 (2)(子)12月25日 (3)12月21日	(1)村井主膳(長堅)→大炊(孝資) (3)村井主膳→奥温良公	こより綴 (1)~(3)切続紙 (4)折封	1
* 1100	御書立等(村井又兵衛遺書被逐御披見云々・座列之儀内膳次と被仰出候事云々)	年未詳		切紙、折封有	2
1101	江戸における近況報告などにつき書状	閏3月6日	前田藤(花押)→又兵衛様上ル人々御中	切続紙、折封有	1
1102	村井出雲進上目録	正月	松平加賀守家来村井出雲	折紙	1
1103	村井豊後守親長経歴書	年未詳		袋綴(断簡)	2
1104	豊後守宛村井又兵衛書翰・豊後守返書(今日於竹沢御殿能云々)	10月28日	・村井又兵衛(長道)→(村井長世) ・豊後守(長世)→(村井長通)	切続紙	1
1105	村井恒宛高松徹好書翰等(国文社経営に関する始末書)	①(明治)22年12月 ②(明治23年)1月18日 ③12月	①高橋嶋奎(印「高橋」)→村井 ②高松徹好→村井恒殿閣下	①切紙 ②切続紙 ③切紙	3
1106	判印鑑 村井親負	天保9年戊戌閏4月	村井親負(印)	切紙、折封有	2
1107	村井又兵衛宛書翰(御鷹之馬の件)	12月2日	①山口清大夫・勝尾半左衛門・藤田平兵衛→村井又兵衛 ②藤田平兵衛→村井又兵衛	①折紙 ②切続紙	2
1108	元禄元年戊辰葛巻様御筆記之内(故村井又兵衛自筆之筆記の件)	元禄元年戊辰12月10日	(葛巻)→村井又兵衛	切紙	1
* 1109	壬戌十二月六日村井主膳養子願書等付、加筆書翰	① (1)壬戌(寛保2年)12月6日 (2)丙辰(元文1年)8月13日 (3)(4)年未詳 ②(宝永7年)6月21日 ③(宝永7年)7月14日	① (1)村井主膳→横山大和守・本多安房守・前田土佐守・前田对馬守・奥村助右衛門・本多頼母・横山蔵人・前田図書・前田大学・玉井市正 (2)村井主膳→横山大和守・本多安房守・前田土佐守・前田对馬守・奥村内匠・奥村内記・本多頼母・前田図書・前田修理・玉井市正 ②村井豊後守(親長) ③村井豊後守(親長)	①こより綴 (1)(2)切続紙 (3)(4)切紙 ②③切紙	3
1110	西尾隼人宛村井又兵衛書翰(縁組の件)	12月24日	①西尾隼人様人々御中 ②村井	切紙	2
* 1111	本多安房守宛村井主膳書翰案(養子の件)	(宝暦3年)9月16日	村井主膳→本多安房守	切続紙	1
1112	村井主膳宛少将書翰写・同請書写(養子の件)	12月15日	①少将→村井主膳 ②村井主膳	切紙	2
* 1113	村井又兵衛宛書翰(嫡子主膳病死につき跡目の件)	未11月28日		切紙	1
1114	藤十郎殿へ口上之覚	7月26日	(1)(長尚連→村井藤十郎) (2)(村井藤十郎→長尚連)	こより綴	1
* 1115	富田織人外二名宛前田土佐守書翰・同人宛村井又兵衛書翰(前田土佐守家と村井家縁組の件)	①天明7年11月21日 ②11月	①前田土佐守→富田織人・横浜善左衛門・志村五郎左衛門 ②→富田織人・横浜・志村	①切紙 ②切続紙	2
* 1116	私嫡子主膳義病死仕候付云々(村井主膳跡目の件)	11月		切続紙	1
* 1117	私末期内之義先達而御示談申上候御云々等(村井又兵衛養子の件)	①天保8年 ②2月22日 ③10月7日 ④2月 ⑤天保8年 ⑥2月23日	①御名(村井長貞)→横山山城守・本多播磨守・前田美作守・長又三郎・奥村内膳 ②村井親負→竹田市三郎・成瀬主税・高田善右衛門・坂井小左衛門 ④竹田・成瀬 ⑥村井親負→長又三郎	①~⑤切続紙 封封有 ⑥切紙	6
1118	村井豊後守願上書(養子の件)	7月	村井豊後守→本多安房守・前田近江守・奥村伊予・本多図書・前田修理・玉井勘解由・成瀬内蔵助	切紙	1
* 1119	村井又兵衛願上書等(養子の件)	①午11月22日 ② (1)甲午(安永3)8月10日 (2)(3)8月15日	①村井→拾三人殿・拾四人殿 [奥書]→奥村主水 ②(1)三宅権左衛門→村井又兵衛 (2)村井又兵衛→三宅権左衛門 (3)村井又兵衛	①切続紙 ②こより綴 (1)袋綴(2枚) (2)切紙 (3)切続紙	2
1120	村井出雲宛宛相書翰 付、三月四日村井出雲覚書	3月朔日 [奥書]3月4日	宰相→村井出雲 [奥書]村井出雲→	切続紙	1
1121	横山大膳宛村井又兵衛書翰(又兵衛病中勤方の件)付、十二月某書翰	①4月22日 ②12月	①村井又兵衛→横山大膳 ②→又兵衛	切続紙	2
* 1122	村井又兵衛宛申達書(又兵衛病氣保養の件)	天明6丙午3月	→村井又兵衛	切続紙	1

※史料名・史料番号は整理後に変更予定

なお、今回の展示については前田土佐守家資料館の林亮夫氏より適宜ご教示を賜った